



谷口 和弥 議員  
(5期の会)

**問**

大谷選手からプレゼントされたグローブ（以下、大谷グローブ）が各小学校の備品のひとつとなるだけでなく、子どもたちに長期に渡り「夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなること」（大谷選手のメッセージより抜粋）となるように大切に使用・管理していただきたい。

ついては、以下の点を伺う。

- (1) 大谷グローブの管理はどのようにされているか。
- (2) 大谷グローブを「見てみたい」「触れてみたい」と希望する町民の思いを叶える方法の検討を。

**教育長**

(1) 管理方法等は各小学校に任せるところだが、すべての子どもたちが、見て触れて使って感じる機会を設定している。大谷選手の想いが伝わるよう、有効に活用していただくことを願っている。  
(2) 毎月19日の「まぐべつ教育の日」に、地域の方に児童や学校の様子を気軽に見ていただく「ぶらり学

**問** 大谷選手のグローブを子どもたちの夢と勇気のシンボルに

**答** 大谷選手の想いが伝わるよう有効に活用していく

校訪問」などを行っており、今後、「まぐべつ教育の日」の周知の中でグローブ展示を紹介するなど工夫をしていきたいと考えている。

**問** 「北海道応援大使プロジェクト」の有効利用で町の活性化を

**答** 町の魅力を最大限に発信し町の活性化につなげていきたい

**問**

「幕別町を応援して「ます」と書かれ、ファイターの選手が並んだ青色のポスターが、幕別町のあちこちで見かけられている。

幕別町はファイターの「北海道応援大使プロジェクト」をどのように利用し、町の活性化につなげようとしているのか伺う。

**町長**

プロジェクトでは、北海道日本ハムファイターズがさまざまな無償、有償のサービスを提供することとしている。

本町では有償サービスとして、球場での地域PRブースへの出展

および飲食イベントへの参加を予定している。町の魅力を最大限に発信し、知名度向上や観光振興、交流人口の増大など、町の活性化につなげていきたい。



ポスターとサイン入りユニフォーム  
(役場庁舎1階ロビー)

**問** 防災訓練を計画的に実施し、幕別町を災害に強い町にする

**答** 冬期における住民参加型の避難所開設訓練を行っていききたい

**問**

「令和6年能登半島地震」を新たな起点にして、冬期間の災害に対する備えや防災訓練の重要性が再認識されているところである。  
ついては以下の点を伺う。

- (1) 幕別町内の自主防災組織の昨今の活動状況は。
- (2) 今後の幕別町による防災訓練の実施予定は。
- (3) 防災士・北海道地域防災マスターといった有資格者の育成や組織化の考えは。

**町長**

(1) 町で把握している自主防災組織の本年度の活動状況は、防災に関する勉強会が7組織で計7回、防災訓練は3組織とひとつの連携防災組織で計4回となっている。

(2) 令和6年2月9日に幕別北コミュニティセンターにおいて、迅速・確実な避難所開設手順を確認するとともに、冬期間の避難所における被災者の健康・安全確保を図ることを目的として、避難所開設訓練を実施した。

今後は、別の避難所でも同様の訓練を行うほか、共助の力を活用した冬期における住民参加型の避難所開設訓練も行っていきたい。

(3) 防災士等の有資格者は、地域防災活動の中心となり、活躍が期待される。資格取得に関する情報を周知することで、有資格者の増加を図っていく。

なお一層地域の防災力を高めるためにも、有資格者の組織化に向けて働きかけを行い、より強固な相互の協力体制の構築に努めたい。